第３回　学校運営協議会

１　日時　　2023 年（令和５年）２月 22 日（水）14:00～15:30

２　場所　　各教室（参観）　図書館（協議）

３　参加者

羽田　知世	さくらホーム
宮本　和香	学校関係者評価委員
堤　　佑哉	法宣寺・図書ボランティア
上野　リサ （オンライン）	穴吹情報デザイン専門学校講師
平岩　千尋 （オンライン）	学校医
宇根　一成	鞆の浦学園　学校長

４　内容

①　授業参観（５０分）

②　質疑・応答，意見交換

◆（校長）授業の様子・学校に来て最近感じたことは？

（宮本）

・子ども達はとても仲良く楽しそうにやっていた。

（羽田）

・５年生の健康教育に関わっている。子ども達は，お年寄りにヒヤリングして，自分たちができることを考えてアクションプランを作った。「鞆の浦体操」を作っているが，この先何年も使える素晴らしいものだ。子ども達が主体的に動いていて本当に感動した。

（平岩）

・大人でさえ，ワークショップをやっても次につながらないことがあるが，５年生は自分達で動いていた。福山市の子ども達の体力・運動能力は，全国的にみても低い，「鞆の浦体操」は子ども達にとってもプラスになる。この体操が地域の文化となってくれれば嬉しい。

（上野）

・良い意味でも，悪い意味でも（学校の情報が）私の耳には届かない。先生方と会う機会が本当に減っている，という保護者の声も聞く。学園便り，HP レベルの発信では，情報が遮断されている感がある。

（上野続き）

特支前期の出前授業に参加して，歳時記作りのアドバイスをした。参観日に展示してあるのを見て，よくできていたと思う。やっていることをどう（学校と地域保護者が）共有するか，どう改善していくか考えていかないといけない。

◆（校長）今年度を振り返って，現状を変える必要があるか。

（堤）

・協議委員になって，先生方から情報共有してもらえる機会がふえ，今までとは違う読み聞かせボランティアができるようになった。（現状については）特別な活動をするより，今をステージアップすればいい。先生や子ども達の思いや課題をくみ取ることが大切だ。

（上野）

・宇根校長の考えるスタイルについて，印象としては居心地がよく，やりやすかった。学校に入りやすかった。メンバーが変わってもこのコンセプトでいいのではないか。ただ，メンバーの持つ特性や力が発揮できるように，もう少し役割を振ってもらってもよかった。

（平岩）

・運営に関してはこれくらいでよい。自分はこの学校としか関わりがないが，「地域と子ども達でやってみたいこと」を，学園がしっかりと受け止めて取り組んでくれる。コミュニティスクールになるにあたって，地域の４８％が高齢者であり，高台にある学校に足を運ぶには物理的な障害もある。違った形で地域に出ていく方法を探りたい。

（羽田）

・子ども達が地域に出ていくのは良い。私も委員となって，職場の中で「子ども達と一緒にやりたい」という声が上がったとき，学校に声を届けやすくなった。今，沼名前神社の前で就労支援の働く場を作りたい。そこの広い庭の使い方を子ども達と一緒に企画したいと考えている。

（平岩）

・子ども達と町づくりをする，この考え方が学校評価自己評価表のミッションに沿っている。本校だけでなく，地域が第２第３の分校であってほしい。

（校長）

・学校の外でいろいろと学んでいける場があることが大切だと思う。

（市教委）

・福山市は今後コミュニティスクールを随時導入予定である。しかし，せっかく立ち上げても，地域も学校も何をしていいのかわからない，ハードルが高い，という意識もある。今後導入していく学校に対して，アドバイスをいただけないか。

（校長）

・（メンバーを）誰にお願いするのかはとても大事だと思っている。それぞれのメンバーの持ち分が，うまくゆるやかにつながっていく，負担なくやれるものを目指さないと長続きしない。気軽に「来て」と言われて気軽に来れるところ，好きなことを言い合える空間が，子ども達（の落ち着いて学べる環境づくり）につながると思う。